

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 5年 1月 27日(金)

その3 通算 300号

◇ うれしかったこと (嬉しかった筍)

24日(火)、本校初の取組である「筍演奏」を4年生が体験した。



岡崎文化協会所属【紀友会】の協力を得た出前講座だが、10名の児童に対して講師の先生3名という豪華さ。児童が演奏体験をする筍については5面(+講師3面の計8面)お持ちいただいたので、何と児童2人に1面という充実した環境も整う。

自分は校外での会議があり、児童の学びの様子を見ることはできなかったが、教頭によれば、『本当にやってよかったですよ。機会がない限り、子供たちが筍を演奏する体験はこれからのかもしれないかもしれませんから、今後も、ぜひ本校で続けられるといいですね』との回答。さらに、『講師の方の会話が聞こえてきたんですが、「すごよ、話を聞く子供たちが全然動かない」と、子供たちを褒めてみえました。そこに目を向けていただけたことが嬉しいですね』の言葉に思わず顔がほころぶ。

出前講座のお礼と今後の依頼を兼ねて【紀友会】代表の杉浦さんに事後連絡。すると、こちらがお礼を伝える前に杉浦さんからお礼の言葉を頂いて、驚き。

話によれば、筍体験の出前講座は3年ぶりとのこと。久しぶりに実施できた喜びに加え、『再出発の学校が常磐東小学校でよかった』とまで語ってくださった。

理由はもちろん児童だ。講師の話や指導を聞く姿勢、意欲的に体験に取り組む前向きさと集中力、そして、学びを深めるけじめある態度である。さらに、『普段、子供たちに接している先生方のご指導が素晴らしいんでしょうね』と続いた。児童だけでなく教師も褒める一連の杉浦さんの言葉に、またまた顔がほころんだ。

杉浦さんは、技量を磨き続ける筍演奏家であり、技術を伝達する指導者。受講した児童たちの姿・表情・所作から、児童をとりまく環境を読み解き、評して下さった。向ける視点は我々教師と同じ。嬉しさが込み上げる理由は、ここにある。